



# Yonago East Weekly

「一人ひとりが輝きを！ ロータリーに大きな輝きを！」

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長/高橋孝之 ●幹事/杉本真吾 ●会報/細田耕治

会員数 97名  
(正会員 96名 名誉会員 1名)

### 今週のお祝い

夫人誕生祝：1日 安井峰男君 3日 関 充宏君 11日 新納哲雄君 17日 松浪昭二君 18日 植田三男君 20日 横田政明君 22日 井上雄介君 23日 今出 上君 26日 松本誠二君 佐田山有史君 28日 長谷川渉君

### 会長挨拶

国立病院院長だった島隆允さんの「いわかがみ(死を展望する医学)」という本を紹介し、昭和62年に国立病院を退官されるときに書かれた本で、ロータリーについて「ロータリーの基本は友情と職業奉仕にある。」と記述があります。

また、イスラエルの精神科医フランコリン博士の文章を引用して、人間は人生をどう生きるのか？生きる意味は何なのか？死に直面したその時に考える生と死とは何か？といった記述もあります。しかし、同時にユーモアもあり笑える場面もある本です。興味のある方は本をお貸ししますので読んでみて下さい。

私と先生の出会いは24才の時です。結核撲滅運動をしていたネパールの岩村博士に、米子JCが医薬品をもって行く運動がありました。私も同行しようと3名で車を用意し、カルカッタからネパールへ行く計画を立てました。何とか車・医薬品の準備ができ実現にこぎつけましたが、出発前にたまたま島先生に診てもらったところ、結核と診断されました。最初は冗談と思いましたが、明日から入院するように言われ、それから二年半、入院することになりました。それ以来、島先生から、声を掛けていただいた思い出があります。

この本をとおして、島先生が偉大な先生であったと再認識すると同時に、米子東ロータリークラブのメンバーであったことを誇りに思います。

### 幹事報告

- 3/21~22親睦交流旅行(岡山)  
13名参加(ゴルフ10名含む)
- 第38回インターアクト地区大会報告書3部  
(ホスト江津RCより)
- 卓話のお願い (琴の浦高等特別支援学校より)
- 例会変更のお知らせ  
米子南RC 4/6(月)移動例会 ビジター受付あり

### 今後の主な行事予定

- 4/19 地区研修・協議会  
(岡山コンベンションセンター他)  
大山春の一斉清掃
- 4/26 第1・2グループ合同IM  
(倉吉シティホテル)
- 4/29 休会(法定休日)
- 5/6 "
- 5/13 新旧引継ぎクラブ協議会  
(2F高砂)



## Light up Rotary

## ロータリーに輝きを

## <プログラム>

「里親制度について」

社会福祉法人 鳥取こども学園

里親支援とっとり

里親委託等推進員 吉田信彦 氏



子供が健やかに成長するためには、安定した家庭で保護者の暖かな眼差しに包まれて育てられることが必要不可欠ですが、さまざまな事情で、家庭で生活できない子供があります。貧困、経済的な不安、両親の別居、入院、行方不明、そして児童への虐待などです。鳥取県が発表した、25年度の児童虐待と認められた数字が155件です。

児童虐待は「身体的虐待」「心的虐待」「ネグレクト(養育放棄)」「性的虐待」の大きく四つに分類されます。平成14年に児童虐待防止法が制定され、見つけた人には通報の義務が課せられました。その結果、この人数の児童が通報で助かったとも言えます。現在、保護されている児童の半数以上は、虐待を受けていたと言われています。やむを得ない事情で家庭で生活できない子供は、児童養護施設や乳児院に預けられます。東部に鳥取こども学園、青谷こども学園、中部に因伯子供学園、西部に米子みその天使園、乳児院は東部に鳥取こども学園乳児部、西部には米子みそのベビーホームがあり、約250名の子供が預かられています。そのような子供たちを、保護者に代わって自分の家庭で育て下さる方を「里親」といい、76世帯あります。

しかし、この「里親」は、正しく一般の県民の皆様には理解されていないのが現状です。たとえば、養子縁組しかなと思っていても多いようです。こどもが落ち着く間、また自立するまで預かっていただくことも可能です。

先日、川崎市男子生徒殺害事件がありました、男子生徒の家庭は子供も多く、母親が朝から夜まで働いていて、なぜだれも見つけることができなかつたのか？この生徒としても、一生懸命に働いている母親にヘルプを言うことはできなかつた、と思います。私たち児童福祉の業界では「保護された子供は幸せ」という考えがあります。実は地域には本当に生きるか死ぬか、食うや食わずの生活など大変な思いをしている家庭もあります。そういう保護者の不安が、子供に向いてしまいます。そのために、しばらくの間家庭から離れ施設で保護し、その間に立て直していただくことが子供には幸せな場合もあります。

保護された子供は、健やかに育っています。そして、誠心誠意育てて下さる施設の職員さんや里親さんがいらっしゃることを、さまざまな機会にお話しています。ロータリーの皆様には、もちろん里親になっていただくこともありがたいですし、身近な人にこんな話があったとお伝えいただきたいです。一番お願いしたいのは、そういった取り組みをしている人がいることを知って欲しいです。機会がいただけましたらお話にうかがいますので、よろしくお願ひします。

3/21~22 親睦交流旅行 倉敷・備前

